



「キリストが形造られるまで」

いつもみなさまのお祈りとご支援を感謝いたします。ブラジリアは冬の終わりを迎え、目の覚めるような黄色のイペーの花が満開を迎えています。半年ほど雨が降らない乾季が続いていますが、もうひと月もすれば、雨季を迎え、乾き切った大地に恵みの雨が降り注ぐことでしょう。

日本をはじめ世界の各地では、地震や洪水等の被害で多くの犠牲者が出ていることに心を痛めています。また、終息の見えない戦争によって、人々の愛が冷え、世界全体が疲弊してきているようにも感じます。

8月に終戦81年を迎えた日本ですが、平和国家としての真価が問われる時代を迎えています。各国の指導者たちのために祈るとともに、神の国の到来を祈りつつ、私たちにできる平和のための行動を模索し実践することが期待されています。

8月15日のヴァルゼンボニータの書道教室では「終戦」の二文字を選び、イザヤ書2:4のみことばを分かち合いました。「彼らはその剣を鋤に、その槍を鎌に打ち直す。国は国に向かって剣を上げず、もう戦うことを学ばない」。国連本部の広場の壁に掲げられているというこの言葉とは裏腹に、国連安保理の常任理事国自ら、AI兵器の研究開発を進めている現実。「もう戦うことを学ばない」という時代はいつ来るのか、それは神の国の完成の日を待たなければならないのか。キリスト者の生き方が深く問われています。



さて、ヴァルゼンボニータ伝道における話し合いが先日、ブラジリア教会の役員会と行われました。毎月一回行なってきた集会を毎週持てるようにしたいとの願いはありますが、会堂を取得する前に、まずこのプロジェクトに関わる奉仕者の育成、また来会者の受洗や弟子訓練を優先する必要があるとの思いで一致し、そのために訪問や家庭集会の場所を増やしていくことや、母体であるブラジリア教会に来ていただき、信仰生活の充実に努めていくことが確認されました。

また、この働きは、ヴァルゼンボニータに住む日系人の救いを願って始まった働きですが、同時にこの地域に住む非日系のブラジル人も多く集まって来ています。私たちは分け隔てのない思いと関わりをもって、主ご自身のなさる救いのみわざに参与協力していきたいと願っています。願わくは、教会の柱となり核となっていく主の弟子たちが育ち、堅固で揺るぎない教会の基礎が築かれていくように引き続きお祈りのご支援をお願いいたします。ここに集う一人ひとりの内にキリストご自身が形造られ、キリストのからだが出来て上げられていきますように。「あなたがたのうちにキリストが形造られるまで」（ガラテヤ4:19）といって教会のために労苦したパウロの祈りを我が思いとしながら、引き続きブラジルの人々に仕えていきたいと決意を新たにしています。



上) ヴァルゼンボニータの毎月のガレージ礼拝／子どもの日曜学校も
下) 高齢の日系一世への訪問／次男・四男とトレッキング



近況と祈りのお願い

- ・ヴァルゼンボニータの人々が救いの喜びにあふれていくように。
- ・体の弱さを覚える高齢者たちの救いと家族のケアのために。
- ・ブラジリア教会の祝福、浜田家の健康と生活が守られるように。

献金のご報告と感謝（2026年5-8月）

	(5-8月分)	(1-8月累計)
指定献金:	615,000円	(1,263,367円)
現地支援:	243,650円	(539,839円)
合 計:	858,650円	(1,803,206円)

2026年目標額：410万円

主への絶えざる祈りと信仰をもって尊い献金をささげてくださったお一人ひとりに心から感謝申し上げます。引き続き、ブラジル宣教の恵みとともに味わい、主の栄光を見ることができるよう。